

<学校名> 草加市立花栗南小学校
<所在地> 草加市花栗4丁目3-1
<電話> 048-941-2854
<本事例の特徴>

本校では、海外から児童が編入してくることは珍しいことではなく、外国籍の児童とも分け隔てなく接している姿が見受けられる。本校の特徴を活用し、自分たちが暮らす日本と外国とのつながりについて考えさせる道徳の時間の取組について紹介する。

<具体的な取組や成果>

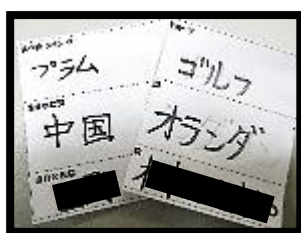
○道徳の時間 主題名「世界とつながる日本」

日本と外国のちがいについて考えさせると、文化や習慣など、様々なものが違うという意見が出た。その後、タブレット端末で、食べ物やスポーツなど、自分の好きなものがどこの国で生まれたか調べさせた。その結果、多くの外国の文化が日本に来ていることや、逆に日本の文化が外国に広がっていることもあることに多くの児童が気付くことができた。

○児童の感想より（一部）

日本と外国ではこんなにもつながりがあるのだと驚いた。外国とのつながりがなかったら、みんなの好きなものもなかったと気付いた。文化や習慣は違うけど、一緒に楽しいと思えたり、おいしいと思えたりするものがあるところにもつながりを感じた。

○上記の取組に加え、黒板に拡大世界地図を用意し、調べた紙を該当する国に貼ることで世界のどこから文化が伝わって来たのかを可視化できるようにした。



○外国から編入してきた児童は、自分の生まれた国から日本に伝わったものを知ってうれしそうにしていた。また、学んだことがクラスメイトとの話題にもなり、笑顔で会話していた。